

## 第37回 友の会会員作品展 世田谷美術館区民ギャラリーにて

11月20日(水)～24日(日)出品者101名 出品作品数197点

### 秀作一堂に会す、第37回会員作品展

この度の世田谷美術館区民ギャラリー全フロアーに展覧された会員作品展は、独創的で洗練された作品が揃い見応えがありました。

会場は二枚続きの大作や青を基調にした静物、モデルの油彩画講座作品に始まり、躍動感一杯のサッカー選手、信州の山並みの連作等の油彩、アクリル等の人物や動植物、風景、パステル画の裸婦等々の洋画コーナー。別室に移ると、彫り込まれた木彫刻講座作品群を囲み、繊細なコラージュ、爽やかな水彩画の講座作品等。続く画期的な抽象画をテーマにした水墨画講座作品や岩絵の具等の画法の花鳥風月や戯画等の日本画作品を過ぎると銅版画、木口木版画講座等の熟練度溢れる版画コーナー。そして最後の展覧は写真、デッサン、和紙造形、書に硝子、陶器等個性に満ちた工芸コーナー。

前回は上回る秀作群の展覧会は、今年度の友の会事業の有終の美を飾るにふさわしいものになりました。会員の力作と講師のご指導、橋本善八館長、村上由美学芸部長はじめ美術館のご協力、そして展示等に携わったスタッフの熱意が結集したレベルの高さを感じる展覧会場には、紅葉が美しく小春日和の続いた会期中、予想を上回る人々が来場し、交流する様が見られました。

(友の会事業部)



### 会員作品展に出展して

奥谷幸裕

11月20日～24日まで開催された本会に、一般分野での参加で水彩画2点、色鉛筆画1点を出展しました。

水彩画は、《京都四条大橋西詰 東華菜館》と《軽井沢の夏》。東華菜館は、歌舞伎座の川向かいにある中華料理店で、この夏に立寄った際、フロアの雰囲気は何とも良く、思わずスマホでパチリ。《軽井沢の夏》は、NHK BSの「新日本風土記」を観ていたら、何とも涼やかで思わず画面をパチリ。色鉛筆画は、《神田祭 日本橋三越前》。三越前を歩いていた、祭半纏の後ろ姿がカッコよくて思わずパチリ。私の絵は風景画ですが、題材によって水彩と色鉛筆に描き分けてます。いずれも風景の中に溶け込んだ人物を描くのが主題で、こういう一瞬の情景がモチベーションになっています。

最終日に私が常々憧れている世田谷美術館美術大学の2期上の方に褒めて頂き、嬉しかった！運営に携われました友の会の皆様に感謝いたします。

### 初めての出品

渡辺久子

私が今回の友の会作品展へ申込みをしたのは締切日ぎりぎりのことでした。描けなくて、毎日向き合った絵を出品しました。

搬入時、会員の方々の作品の中に私の絵を見つけました。初出品です。とても興奮した瞬間でした。昨年、世田谷美術館の友の会に入りましたので、この参加は私には全てが初めてのことでした。会場を歩いてみると、「ここに時間がかかってね」「こうしたんだよ」そんな言葉が、初出品の私には刺激的でした。全ての作品は友の会の世話人の方々の協力で見事に展示されていました。

友の会の中には、さまざまな美術活動があります。次の作品を考えている人も見受けられました。とても意欲的です。私も、気持ちは来年を向いています。参加したことで、少し前進したような気がします。もっと勉強をして別のジャンルの作品にも挑戦してみたいです。

作品展に出品し鑑賞した事は美術創作の醍醐味を味わった楽しい機会となりました。

## 世田谷美術館・友の会共催 解説・鑑賞会

## 「生誕130年記念 北川民次展 —メキシコから日本へ—

解説：塚田美紀 学芸員

10月12日(土) 参加者105名

## 当該レクチャーから私が学んだこと

高垣慶子

北川民次は1914年渡米。ジョン・スローンから「対象がリアルになるまで十分醜く描け」と教わる。マイノリティの労働者として生き、表現する事の切実さを知る。1921年メキシコへ渡り各地の先住民集落を訪れた。革命を経たメキシコでは「壁画運動」がスタート。北川はこれに共鳴した。国立美術学校と分校「チェルプスコの旧僧院」で学び、その後トラルパンの野外美術学校に就職。1932年からはタスコの野外美術学校へ。「先生と呼ぶな」「好きなものを描いてこい」とし、「絵を組み立てることを通じて子供達が自分の人生を自分で切り拓き、困難を乗り越えていけるように」と考えた。

帰国後、名古屋の動物園で野外美術学校を開いたが日本の子供達が全員噴水の所へ描きに行った事にショックを受けた。そこで数日間は遊ばせて、それから絵を描かせた所、思い思いに動物を描いた。

私は今回のレクチャーでの学びを踏まえて、展示室で1970年瀬戸市立図書館陶板壁画原画《勉学》を見たとき、子供達の成長を優しく見守る北川民次氏の愛情を強く感じました。



## 友の会主催 解説・鑑賞会

ミュージアム コレクション II

## 「かわりゆくもの、かわらないもの —TRANSITION—

解説：碓井麻央 学芸員

11月30日(土) 参加者36名

ミュージアム  
コレクション展が  
面白い

かわるものとは何? かわらないものとは何? この展示で取り上げられた画家たちの共通点は何? そんなことが気になりながら、この講演を聞きました。

20世紀を生き、世田谷にアトリエを構えた三人の画家。難波田龍起、村井正誠、堂本尚郎。碓井麻央学芸員は、三人の描く絵の変遷(TRANSITION)を具体的に挙げつつ、何の影響を受け変わってきたのか解説されました。それぞれに、絵に取り組む出発点は違うし変化するきっかけも違いますが、画風が次第に抽象絵画へととなり、表現が研ぎ澄まされていくように感じました。「抽象はいわば魂の表現だろう」と難波田は言っています。三人共、常に自分の思いをどう表現しようかを考えていたようです。かわるものは画風、かわらないものは絵への熱い思いと飽くなき探究心、と言えるでしょうか。

同時に展示されている高峰秀子の肖像画についても解説いただきました。画家たちとの交流をお聞きし、昭和の大女優のスクリーンでは見られない一面を知ることができました。(友の会広報部)



## 世田谷美術館・友の会共催 解説・鑑賞会

## 「東急 暮らしと街の文化 —100年の時を拓く—

解説：池尻豪介 学芸員

12月18日(水) 参加者25名

## 出発進行! 東急グループの魅力を再発見

池田浩明

「出発進行〜」。東急電鉄の現役駅長さんの合図掛け声で始まる開幕レセプション動画が流れ、その後、解説・鑑賞会がスタートしました。

2007年に始まった「企業と美術」シリーズは、毎回楽しみにしている企画です。シリーズ第5弾となる今回は、東急グループがテーマと知り、身近な存在でもあることから興味をひかれました。

これまで東急といえば、普段利用している東急線や東急百貨店のイメージが中心でしたが、池尻豪介学芸員による丁寧な解説と豊富な資料を通じて、東急が100年以上にわたって築いてきた歴史を深く知ることができました。戦前戦後の鉄道会社の吸収合併、多摩田園都市構想、さまざまな文化事業、そして近年の渋谷地区の再開発に至るまで、東急の歩みは実に多彩で興味深いものでした。特に、子どもの頃に訪れた二子玉川園や五島プラネタリウム、こどもの国の紹介には懐かしい思いがこみ上げ、東急が私たちの生活に長年寄り添ってきたことを改めて実感しました。

最後に、池尻豪介学芸員お勧めの東急電鉄のキャラクター「のるん」の写真もばっちり撮影。思い出に残る一コマとなりました。



## 木口木版画講座

講師：鬼塚満壽彦 西浦啓二

9月4日(水)〜10月16日(水)全7回 参加者14名

## 少女気分で刻む時間

青海智子

私と木口木版画との出会いは、当時小学校の校長だった鬼塚先生からいただいた年賀状でした。版画の美しさに感動し、その繊細な表現手法に興味を持ち、自分も真似して消しゴムはんこを作っていました。それが木口木版画という技法で、鬼塚先生の講座があると知ったのはコロナ禍のとき。講座の再開を待つ先生に再会したときは、感激のあまり涙が溢れました。

一方で、作業工程には難しさを感じ、彫る段階ではとくに慎重になりましたが、先生が「怖がらずにどんどん彫ってごらんさい」と励ましてくださり、恐怖は探究心へと変化。彫るのが益々楽しくなって、画に命が吹き込まれていくような感じがしました。

講座中、先生方のご指導や創作室の匂いが小学校の図工の時間を思い出させ、甦るあの頃の感覚が懐かしくもありとても新鮮でした。

たくさんの学びと温かなサポートに感謝しています。

夢中になる幸せなときをありがとうございました。



## 銅版画講座

講師：浦辺佳奈枝

9月6日(金)～10月11日(金)全6回 参加者17名

## 楽しい銅版画

藤井由美子

世田谷美術館美術大学で銅版画を学んで以来5年、春はステップアップ講座、秋はこちらの友の会講座で、楽しく続けさせていただいております。ご一緒する受講生の皆さまのこまやかに描き込まれた繊細な世界観や、黒が素敵なのワールアートを拝見するのもとても楽しみです。私は家族や猫をアクアチントやドライポイントで刷ることが多いのですが、メゾチントでぐっと引き込まれる芸術的な作品を刷られている方も多く、また皆さまそれぞれにお気に入りのモチーフがおりるので、最終日の講評会はいつもバラエティ豊かです。

浦辺先生の講座ではカラーインクを使わせていただけることもあり、今回は浮世絵のように版を重ねて刷ってみたり、色和紙を貼ってみたり、後から手彩色をしてみたりと、先生や先輩方に様々にご相談させていただきながらの格闘も大変刺激になりました。まだまだ知らないことの多い銅版画の世界を、今後も覗いていきたいと改めて感じた受講期間でした。



## 第37回アート散歩

松濤美術館～渋谷公園通りギャラリー

10月18日(金) 参加者26名

## 楽しかった、アート散歩

小林芳郎

雨を心配しながら午前10時に神泉駅改札口に集合、松濤美術館へ。まず平泉千枝学芸員から日本の美術における「空」の描かれ方と変化などの解説をお聞きした。解説は周到に準備されていて、今回の「空の発見」展の鑑賞に大いに助けとなった。作品はどれも興味深く、一同堪能。時間が足りないほどだった。この美術館は中央の空間を取り囲むように建てられていて、晴れていれば地下2階から「空」を見上げられたら(に、残念)。

その後、松濤美術館から洒落た雰囲気のある道を歩みつつ、雨がぱらつく中、渋谷公園通りギャラリーへ。そこで秋間敬代学芸員からそれぞれの画家への熱い思いが伝わってくる解説を伺った後、「アール・ブリュット2024巡回展」を鑑賞。小さなギャラリーだが、段ボール素材を使って展示を工夫しておられ、作品はどれもユニーク。これまた一同堪能。

実に楽しいアート散歩だった。準備をしてくださった世話人の方々に心から感謝。



## 友の会主催 第63回 秋の美術館めぐり

小田原文化財団 江之浦測候所～平塚市立美術館

11月7日(木) 参加者47名

## 季節は立冬なれど、温暖なパラダイス相模湾岸を巡る旅

田崎秀信

関東地方が木枯らし一番に身を縮めた11月7日立冬。大型バスを満席にし、相模湾根府川の蜜柑と檸檬が潮風に香る江之浦測候所に到着。初夏のような陽気に上着と帽子はバスに置き、汗ばみながら元気にツアーを開始しました。

江之浦測候所は、各地から集められた謂れある古石材などを再構成し、夏至と冬至の太陽光をそれぞれ長大な遙拝廊から引き入れ、新たな時を刻ませる大掛かりな機構です。相模湾へなだれ込む断崖に張り付く家並が見守り、陽光と潮風を受けて佇む石と金属の作品群へ、生活と自然が命を吹き込み反応し、観察者へ還元される仕組みを感じました。

昼食を、この夏ダイビングで馴染みとなった真鶴半島琴ヶ浜で頂き、平塚市立美術館へ。藤谷紅児の名前は知らずとも、叔母の文庫で見たことある絵。その原画の手練れた描写と様々な文化様式の知識に感心。鑑賞者達の対話と思考を促す「おしゃべり美術館展」、平塚の小中学生の「わたしたちの絵画展」など、晩秋の陽光の中、箱根火山と相模湾に挟まれた豊かな地勢が多くのアーティストを育み魅了するユートピア巡りを堪能しました。



## 新しい会員証

2025年の会員証のデザインが決まりました。

宮本三郎《黒鳥》1963年

会員証の作品は収蔵品の中から選んでいます。

\* DIC川村記念美術館が4月から休館のため、友の会の割引が3月末を持って終了となります。

## これからの事業について

- ◎ 美術講座 3月20日(木)  
テーマ:「芸術は爆発だ! 岡本太郎」  
講師:土方明司氏  
(川崎市岡本太郎美術館館長、  
武蔵野美術大学客員教授)
- ◎ アート散歩 3月末
- ◎ さくら祭 3月29日(土)、30日(日)
- ◎ 友の会総会 5月予定
- ◎ 解説・鑑賞会 企画展・ミュージアム コレクション展ごとに予定
- \* 2025年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にはチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

## 世田谷美術館友の会に入会しませんか!

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「芸術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。

## お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。

Tel. 03-3416-0607  
[https:// setabi-tomonokai.jp/](https://setabi-tomonokai.jp/)

